

家庭菜園相談室

今月のテーマ

作物に合った肥料の量を知ろう

作物の生育には、窒素、リン酸、カリの三要素が不可欠ですが、作物の種類によって必要な養分量は異なります。生育期間が長いナスやキュウリなどは多くの肥料が必要です。逆に短期間で育つ葉物野菜などは、それほど肥料を必要としません。

●施肥量の目安を知っておこう

作りたい作物の必要な施肥量があらかじめ分かっているならば、肥料のまきすぎを防ぐことができ、無駄がありません。また、余分な窒素分が雨などで下層に流れ、地下水汚染となる原因を防ぐことができます。

以下が主な野菜の窒素、リン酸、カリの施肥量（1㎡当たり）の目安（土質によって多少の差があります）です。

果菜類

トマト・ナス

窒素(N)… 25g
リン酸(P)… 30g
カリ(K)… 25g



エダマメ・エンドウ

窒素(N)… 10g
リン酸(P)… 15g
カリ(K)… 10g



キュウリ

窒素(N)… 25g
リン酸(P)… 25g
カリ(K)… 20g



根菜類

ニンジン

窒素(N)… 20g
リン酸(P)… 25g
カリ(K)… 20g



ダイコン・カブ

窒素(N)… 20g
リン酸(P)… 20g
カリ(K)… 15g



葉菜類

ホウレンソウ・ネギ

窒素(N)… 20g
リン酸(P)… 15g
カリ(K)… 15g



ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー

窒素(N)… 25g
リン酸(P)… 25g
カリ(K)… 20g



実際の 施肥量の 計算方法

1㎡当たりN:P:K=20:20:15gの場合、14-14-14の化成なら全体の14%窒素、リン酸、カリが入っていることになるので $20 \div 0.14 = 142\text{g}$ 化成肥料を142g施すと窒素、リン酸はよいことになります。「野菜の達人」(15-14-10)なら約133g程度です。
通常は窒素(N)で計算しますが、リン酸やカリ分が少ないときは「ようりん(P)」、「塩化カリ(K)」などで補完します。

元肥と追肥

上記の施肥量は生育期間全体を通して必要な量です。一般的に生育期間が長いものは元肥の量を減らして追肥の量を多くします。また作物によって生育の後半に肥料を多く必要とするものもあるので追肥を多くします。

じわじわ効果で野菜がおいしく

野菜の根は土の中の窒素分（硝酸イオン）を吸収し、ゆっくりと大きくなっていく過程で糖やビタミンCの含有量が増加します。もちろん有機質肥料はゆっくりと効き目が現れるので、野菜をおいしく作るのに適した肥料です。しかし、与えすぎると野菜の糖やビタミンCの含有量は減ってしまいます。さらに元肥で有機質肥料を施していても、栽培中に窒素が切れてしまうことがあるので、速攻性のある化学肥料で補うなどして両方を使い分けることがポイントです。

収穫部位で必要な肥料は違う

葉を収穫するのか、実や根を収穫するのかによっても必要な肥料分は異なります。例えば実を収穫するトマトやナス、キュウリなどの果菜類は、花や実の着きを良くするリン酸を多めに施すことが重要です。同じように根を収穫するニンジンなどの根菜類もリン酸を多く必要とし、根が生育する時期はカリも欠かせない養分です。

葉菜類には窒素を効かせる

葉を収穫する小松菜やキャベツなどの葉菜類は、主に茎葉を育成させる窒素肥料を主体に施します。ただし同じ葉菜類でもブロッコリーやカリフラワーは、蕾や花茎を収穫するので、窒素肥料に加えてリン酸肥料も多く必要とします。